

# 会 報 <第457号>

次代を築くヒューマン・ネットワーク  
一般社団法人兵庫県建築会



令和6年2月1日

## 目 次

- I 令和6年新春会員交流会 ……1～6頁
- (1) 能登半島地震の犠牲者の皆さんへの黙祷
- (2) 会長挨拶
- (3) 来賓挨拶
- (4) 叙勲、褒章受章者への記念品贈呈
- II 特別寄稿 ……7～10頁
- 「花みどりフェア2025の開催」
- 淡路花博25周年記念事業実行委員会事務局 事業部長 小山 達也 氏
- III お知らせ 行事予定、編集後記 ……11頁
- IV 広報コーナー 兵庫県住宅再建共済制度 ……12頁



# I 令和6年新春会員交流会

日時：令和6年1月11日（木） 17：00～19：00

場所：神戸三宮東急 REI ホテル

(能登半島地震犠牲者に対する黙祷)

令和6年1月1日に発生しました能登半島地震の犠牲者に対する弔意を表すために黙祷を行いました。

(会場風景)



(黙祷の様子)



## 【会長挨拶】



令和6年の新年を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症法上の2類から5類へ変更され日常生活が戻り、本日は当会らしいスタイルで新春会員交流会が開催できましたことに感謝しております。

また、ご来賓として兵庫県より服部副知事様を始め、県、市の幹部職員の皆さま、関係団体からも多数の皆さまにご出席を賜り、御礼申し上げます。そして、会員の皆さまと共に新春を過ごすことは大変有意義であり有難く思っております。

さて、皆さまにおかれましても、元日早々、能登半島を震源とする震度7の大地震の発生を知りそのニュースにくぎ付けになったと思います。29年前の阪神・淡路大震災を体験した恐怖の記憶と、東日本大震災の津波の恐ろしさが鮮明によみがえりました。さらに、2日夕刻の羽田空港では海上保安庁の輸送機と日本航空の大型旅客機が滑走路で激突炎上する大事故が発生し、いたたまれない気持ちになったことと思います。亡くなられた方のご冥福をお祈りすると、被害にあわれた方、現在も寒冷の地で避難生活を送られている方々に心からお見舞い申し上げ、一日も早く元の生活を取り戻されることを願ってやみません。

私たちが暮らす兵庫県が阪神・淡路大震災から復興できたのも全国各地からの多大なるご支援のお陰であり、当会としても微力ではありますが被災地の復旧・復興への協力を惜しまない所存であ

ります。受付に「能登半島大震災義援金箱」を設置しましたのでお帰りの際にも募金に協力して頂ければ幸いです。

また、発生29年となる阪神・淡路大震災以降日本国内いつ、どこで大きな地震が起きてもおかしくないとされています。政府の地震調査委員会によりますと、南海トラフ地震の発生において今後30年以内に発生する確率が70%~80%としており、その切迫性は非常に高く、甚大な広域災害が発生すると想定されています。改めて防災、減災について研究をしてみたいです。

最後に、去年は地元の阪神タイガース、オリックス・バファローズ、ヴィッセル神戸、坂本花織選手らの活躍が私たちに感動を与え、勇気と元気を頂きました。本年は建築に携わる我々が大いに活躍し、まちや地域を発展、成長させる原動力となり、兵庫県を盛り上げていきましょう。

そして、本年が皆様にとって、ご健勝で素晴らしい一年になりますことをご祈念申し上げ開会の挨拶といたします。



## 【来賓挨拶】

(兵庫県 服部副知事)



今年は新年早々、能登半島を震源とする最大震度7の地震が発生するという思いもかけない幕開けとなりました。

県内では大きな被害は発生しませんが、石川県を中心に各地で甚大な被害が生じています。

県では地震発生翌日の2日早朝に、石川県庁に職員を派遣し被災情報の把握、ニーズ調査に努めるとともに、2日夜からは支援物資を搬送したほか、4日には関西広域連合の支援本部会議、5日には県の支援本部会議を開催し支援方針を決定しました。

県と神戸市は、関西広域連合の構成団体として、一番被害が大きかった石川県珠洲市のカウンターパート支援を進めています。

7日に珠洲市にまず先遣隊2名、そして8日には神戸市と合同で14名、計16名の第1陣を派遣し、本日は交代要員として第2陣が出発しました。

現地では市役所の職員自身も被災者ですので、職員の2分の1程度しか出勤できず、市役所業務自体も回っていない状況と聞いています。また、正規の避難所以外にも自主的に集落単位で避難されている方々も数多くおられますが、そのような箇所も現状を把握できていない状況で、かつそこに至る道路も寸断されていることから、現在は自衛隊の車に同乗し、把握できていない避難所の調査や、ニ

ーズの聞き取りをしているところです。

避難所の状況は、物資は届いていますが、水道の復旧には時間がかかる見通しで、一番困っているのが、トイレの問題です。寒さ等による関連死も懸念されています。

様々な課題を抱えている中、支援は兵庫県だけが行っているのではなく、浜松市、福井県、千葉県、千葉市、兵庫県、神戸市で、七十名弱の態勢により支援を行っています。

また、本県の建築職の職員が本日から2名現地入りをし、被災建築物の危険度判定業務に従事しているところです。

今後、災害の復旧から復興のフェーズでは、応急仮設住宅の建設、インフラの復旧、復興プランの策定など、必要に応じた支援に取り組んでいきたいと考えています。

このたびの地震はマグニチュード7.6と、阪神・淡路大震災よりエネルギーレベルが大きく、非常に大きな被害が生じました。山間部の道路は壊滅状態で、金沢から通常2時間弱で行けるところが、7時間かかるような状況です。泊まる場所も確保できないため、県が派遣した支援チームは、体育館の片隅で持参した毛布で寝泊まりしているという状況です。引く続き、被災者に寄り添った息の長い支援を行いたいと考えております。

最後になりましたが、令和6年は辰年です。「昇り竜」の勢いに乗れるように、県としても攻めの県政に転じてまいります。建築会におかれましても、県内の安全安心のための取組の牽引役となってしっかりと力を発揮していただきますようよろしくお願い申し上げます。



## (神戸市住宅建築局 小川副局長)



私は、29年前の阪神淡路大震災の折、長田区役所で担当者として勤務をしておりました。輪島市の火災が発生した映像を見ると頭によぎり、当時の火災現場と今回の地震の被害が重なって少し胸が塞がる思いがいたしました。

先ほど兵庫県の支援活動の詳しいご報告がありました。神戸市も1月3日から兵庫県と共同して現地に職員を派遣しています。

当初は応急給水の支援や壊れた水道施設の復旧部隊が現地に入りました。その後、避難所の支援チームとして健康管理のため保健所の部隊が入り、現在は建築物の応急危険度判定業務で建築職が現地に入るなど、今後順次職員の現地派遣を増やしていく状況です。

神戸市は阪神・淡路大震災の折に、たくさんの支援をいただいた被災自治体であり、現地の復興復旧を見届けるまで、息の長い支援を兵庫県と共に実施してまいりたいと思っております。

神戸市を取り巻く状況に話を移させていただきますと、少子高齢化や東京への一極集中、人口減少社会が抱える課題に対して引き続き迅速な対応、施策の展開が求められています。そこで、本市が進める「海と山が育むグローバル貢献都市」の実現に向けて、都市建築分野で様々な事業を展開しております。

皆様方もご承知かと思いますが、都心三宮エリアでは新たなバスターミナルを含む再開発ビルの工事が本格化しています。三ノ宮駅の新たな駅ビルの本体工事もいよいよ始まり

ました。市役所2号館の跡地に複合施設を建設するプロジェクトにつきましては、現在設計を進めているところです。

また、ウォーターフロントエリアに目を移しますと、新しい水族館もグランドオープンしましたが、大規模多目的アリーナの建設が順次進んでおり、神戸空港ではサブターミナルの計画も進められています。こういった神戸を魅力ある都市づくりに切り替えていくというプロジェクトを本年も引き続きスピード感を持って展開していきたいと考えています。

一方で、建築業界を取り巻く状況の変化も著しいものがあります。時間外労働の上限規制はいよいよ目前に迫りました。働き方改革というのは、待ったなしで進めていかなければなりません。神戸市では既に公共工事で週休2日制での発注を導入していますが、今後は皆様と連携して民間分野で改革を浸透させていかなければならないと考えております。

また、脱炭素社会の実現や木材利用の促進といった課題も、非常に重要です。

神戸市では従来から公共建築物への木材利用に積極的に取り組んでおり、来年度は3,000㎡規模の公共建築物において木造化の取組を進めてまいります。今後は民間分野でも脱炭素、木材利用の促進に向けて取組を進めていただけるよう、神戸市の取組の情報を市民の方々や事業者の方々に広く開示し、その促進を図ってまいりたいと思っております。この会場の皆様方にもご協力をよろしくお願いいたします。



【 乾杯 大木 副会長 】



最初に、このたびの能登半島地震により犠牲になられた方々へ謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。一日も早い復旧復興を心よりお祈りいたしております。

それでは、令和6年一般社団法人兵庫県建築会新春会員交流会にご参集された方々のご健康とご活躍を祈念いたしまして、ご唱和ください。乾杯。

【叙勲、褒章受賞者への記念品贈呈】

◎旭日双光章



森 長義氏 元(株)森長組社長

◎瑞宝双光章



川端宏幸氏 前副会長、宮本設計顧問

◎黄綬褒章



今津由雄氏 今津建設(株)取締役社長

(その他、本日はご欠席でしたが、(株)ノバック代表取締役の立花充氏が黄綬褒章を受章されました)

【中締め】

本日は皆様新年のお忙しい中、兵庫県建築会新春会員交流会に多数ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。お正月より先ほど来ご挨拶にもございましたけれども、能登での地震、それから羽田空港での事故など衝撃的な出来事が起こっております。

特に能登半島地震では、被災地、被災者への対応が今後も続いていく状況でございます。

今年も始まったところでございます。辰年である今年が天高く昇る竜のように皆様方が大きく飛躍する、そういったことを願いつつ一本締めで中締めとさせていただきます。



(出野上 副会長)

## Ⅱ 特別寄稿

### 「花みどりフェア2025の開催」

淡路花博 25 周年記念事業実行委員会事務局 事業部長 小山 達也 氏



(春を感じる花壇)

私たちの身近にある花やみどりを愛し、育てることを通じて「人と自然のコミュニケーション」の望ましいあり方を追求し、地球環境の保全と創造に寄与することを願って開催した国際園芸・造園博「ジャパンフローラ2000」（淡路花博）から、令和7年に四半世紀の節目を迎える。

この間、気候変動に伴う災害の激甚化といった地球規模の環境問題が顕在化する一方で、世界的なSDGsへの関心の高まりやコロナ禍をきっかけとした淡路への企業・人材の流入等、淡路島を取り巻く環境は大きく変化をしている。また、令和7年には「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに大阪・関西万博が開催され、本県にも、国内外から多くの来場者を見込める機会でもある。

これらを踏まえ、これまで育み、蓄積してきた「人と自然の持続的な共生のあり方」をレガシーとして継承・発展させるとともに、万博の機会を捉え、国内外に新たな潮流等を効果的に発信する。

「見て楽しむ」だけではなく、その良さを「生で感じてもらう」体験型のイベントを取り入れるなど、「来て・見て・体験」することで、人と自然の持続的な共生のあり方を学ぶきっかけづくりとする。

会期：令和7年3月20日（祝）～4月27日（日）  
〔39日間〕

島内3市メイン会場：

- ①淡路会場(淡路夢舞台、国営明石海峡公園)、
- ②洲本会場(洲本市中心市街地)、
- ③南あわじ会場(淡路ファームパーク イングランドの丘)

### 1 これまでの歩み



(ジャパンフローラ2000 開会式)

国際園芸・造園博ジャパンフローラ2000（淡路花博）は、緑ゆたかな地球環境の保全と創造、阪神・淡路大震災の教訓に学んだ安全で快適な新しい公園緑地の提案、花と緑を愛し育てることを通じて人々に喜びと感動を与え、互いに参加・協力しあう心豊かな地域社会づくり、園芸・造園の知識と技術を集大成し、成果の展示と新技術の提案を行い、園芸造園産業の発展と国際的な振興をはかる、震災復興のアピールと世界都市・関西の形成への貢献を基本的なコンセプトとし、テーマとして、「人と自然のコミュニケーション」を掲げ、環境（自然環境の保全・創出・回復・再生）、継承・発展（人と自然の共生の心の継承）、淡路からの発信（淡路島から新しい花みどり文化の発信）を理念として開催された。

当時の淡路町・東浦町（現在は2町共に淡路市）において3月18日から9月17日まで計184日にわたって開催され、当初の目標であった200万人を大幅に上回る約700万人の入場者を得て、関西空港建設のために採土し、広大な荒野と化した跡地を緑地に再生する意義を発信する、開催の意義が達成された。

こうして成功を納めた淡路花博の理念を継承・発展させるため、2010年から5年ごとに淡路花博を開催してきた。

2010年に開催された「花みどりフェア2010」は、ジャパンフローラ2000のメイン舞台の跡地に整備された淡路夢舞台をメイン会場に、皇太子・妃両殿下のご臨席をいただき、「人と自然の新たなコラボレーション」をテーマに3月20日から5月31日まで開催された。この際の理念は、ジャパンフローラの理念のカテゴリを踏襲し、環境（地域から取組む新たな地球環境の創造）、継承・発展（人と自然の協働と豊かなところによる新たな共生空間の形成、継承・発展）、淡路からの発信（環境立島「公園島淡路」から新しい花みどり文化の発展）であり、サテライト会場を含め、約220万人の来場者を得た。

2015年に開催された、「花みどりフェア2015」では、メイン会場を淡路市だけでなく、洲本市、南あわじ市にも設け、「人と自然の共生のステージ」をテーマに、全島をあげて3月21日から5月31日まで開催された。この際の理念は、環境（環境の世紀にふさわしい持続可能な社会の実現）、継承・発展（新たな時代の人と自然の共生の継承・発展）、淡路からの発信（全島あげての淡路島の新たな魅力の発信）であり、サテライト会場を含め、全体で約390万人の来場者を得た。

2020年に開催された、「花みどりフェア2020」では、花を中心テーマとした春期に加え、食を中心とした秋期も開催した。当初は、2020年秋から2021年春にかけての開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響を受け半年延期の上、春期は淡路会場を中心に2021年3月20日から5月30日に、終期は洲本会場を中心に、2021年9月18日から10月31日として、「みなとつながる「花 緑 食の島」淡路」をテーマに開催された。この際の理念は、環境（地域力の発揮による持続可能な社会の実現を先導）、

継承・発展（「持続する環境の島」を次の世代へ継承）、淡路からの発信（潜在的な地域の魅力発信と世界との交流）であり、コロナ禍にありながら、サテライト会場を含め、全体で約360万人の来場者を得た。

このように、夢舞台を起点に始まった花みどりイベントが、回を重ねるごとに場所、テーマとも広がりを見せ、淡路の自然の魅力を再発見・発信するイベントとして、また、地域住民主体の取り組みとして定着してきた。

## 2 花みどりフェア2025の視点



（造園技術を世界へ発信）

この間、淡路島を取り巻く環境に大きな変化がみられる。

ジャパンフローラ2000の開催と、その後3回の花みどりフェアを通じて、花博の理念が浸透しつつあり、地域住民主体の「花・緑」に関する取組が根付いている。

また、国際的にSDGsの機運が向上しており、ひょうご産業SDGs推進宣言事業などSDGsを推進する施策が進められているなか、淡路島においても、カーボンニュートラルに資する取組等SDGsを実践している。

景観の面では、生物多様性への配慮が世界的潮流となっているなか、世界各地で自生種を活用した修景等も始まっている。

コロナ禍やデジタル化の進展により、東京一極集中の潮流が変化してきており、淡路島に魅力を感じる、コロナ禍をきっかけとした淡路への企業・人材の流入が顕著となっており、特に西海岸には近年、多くの観光スポットがオープンしている。

折しも、令和7年4月から日本国際博覧会（大

阪・関西万博)が開催され、あわせて、淡路全島でAWAJI島博2025が開催されるなど、ビックイベントが目白押しとなっている。

そこで、ジャパンプローラ 2000 から四半世紀が経過し、花とみどりの楽しみ方が多様化してきているほか、ジャパンプローラの理念やその先導的な取組が地元に着いてきたことから、大規模イベントの実施から日常的・継続的な取組へシフトすることとし、今回を最後の花みどりフェアとする。また、最後を飾る企画として、「花と緑」に関連するイベントに主眼を置き、春期のみ重点的に開催することとした。

「人と自然の共生」を目指したこれまで開催したフェアの理念を継承し、持続可能な社会の実現に向けた地域住民主体の「花と緑」の取組を後世に伝える機会とし、なかでも、国際的なSDGsの機運向上等を踏まえ、淡路島におけるSDGsの取組を積極的にPRする。

さらに、大阪・関西万博の機運醸成をはかるとともに、国内外から多数の観光客が訪れるこの機会を活かし、淡路島の地域資源もPRすることにより、フェアを契機として、さらなる企業や人材の流入に繋げるとともに、淡路への来場者を増加させる「ブースター機能」の役割を果たしていく。

### 3 花みどりフェア2025の方向性

これらの状況を踏まえ、花みどりフェア2025の方向性について実行委員会、企画起因会において検討を行なっている。

現在の検討状況としては、これまで積み上げた「人と自然の共生」の理念をレガシーとして地域に根付かせ、発展させる機会とするため、「自然と生きるいのちをつなぐ淡路島」を開催テーマに、環境(SDGsに資する取組の普及・先導)、継承・発展(人と自然の持続的な共生のあり方をレガシーとして継承・発展)、淡路からの発信(これまで育み、蓄積してきた取組や新たな潮流を国内外に発信)を理念として開催することで調整を進めている。

「花みどりフェア」の名称から、花に特化したイベントと受け止めるむきもあることから、開催テーマに、本来の趣旨である「人と自然の共生」のニュアンスを入れ、万博とも相まって「新たないのちのありよう」を考える機会としたとの趣旨を含んでいる。

また、これまで同様、環境、継承・発展、淡路

からの発信を理念とし、具体的な事業を盛り込んでいくこととしている。

そもそも淡路島においては「環境未来島構想」があり、その理念が浸透している。そこで、これらの理念を具体化するにあたり、おおきく環境未来島構想のカテゴリである「エネルギー」「農と食」「暮らし」に区分している。

まず、エネルギーの面では、既に、竹チップによるバイオマス燃料等、島内で自然素材を有効活用する取組が進んでいる。今後とも限りある資源を有効活用し、新たな資源・エネルギーとして価値を高めるとともに、自然への負荷を軽減する取組を広めていくため、例えば、竹チップボイラー等SDGsの先進的な取組をパル等で展示することとしている。

また、農と食の面では、現在においても、淡路島たまねぎをはじめとしたおいしい野菜や果物をブランド化し、淡路島・島サラダフェア等の開催により、地域住民はもとより国内外の消費者を魅了している。イベントにおいて、魅力的な食の提供は集客の大きな起爆剤ともなる事から、「淡路島産」の農産物の素晴らしさをPRしていくとともに、近年の新たなトレンドでもあるエディブルフラワー等の食べ方・育て方をも紹介していく。

さらに、「暮らし」については、さらに、自然、すまい、人、仕事にさらに細分化し、自然に関しては、現在においても、花とみどりの魅力を活かし、発展させ、次世代へと引継いでおり、あわじ石の寝屋緑地の「いきものたんぼ」等の体験ツアー等により、次世代を担う若者へ豊かな自然環境を、さらに引き継いでいく。



(夢キッチン)

すまいに関しては、島内の多様な自然環境や地刑を活かし、多彩なアウトドア施設や緑体験コンテンツが開発され、観光客を呼び込んでいる。

こうした自然に触れることで得られる「癒やし」や生物多様性への配慮をPRするとともに、世界のトレンドとなっている「自生種による庭造り」など、花とみどりと共生する暮らしを提案してい

く。建設業の皆様には、自然と調和した修景づくりについて、今後ともご協力をいただきたいと考えている。

人の面では、県立淡路景観園芸学校の取組や人材育成プログラムをはじめ、我が国の景観園芸の中核人材の育成を先導している。これらの芽を1つずつ丁寧に育み、次代を担う人材を育成していく。

仕事の面では、あわじ花さじき等、自然を活かした観光産業、線香や淡路瓦など自然素材を活かした地場産業などが古くから根付いている。これら島内施設等をサテライト会場とし、ツアー等を造成するなど、淡路島の地域資源や観光資源を効果的にPRしていく事としている。

#### 4 具体的な事業

これまでに紹介したとおり、今回の花みどりフェアが最後の大規模イベントの機会となる事から、今回は2つのカテゴリでの事業展開を行なう。

そのひとつは、従来同様、花やみどりに関する工夫ある展示や体験イベントを行い、淡路の魅力を体感していただくことにより集客に繋げるものである。具体的な取組としては、淡路島の一番の魅力である花と緑を一番のPRポイントとして捉え、フェア期間中、来島すればいつでも花とみどりが楽しめる環境を構築する。なかでも、集客の目玉となる行催事や、「見て楽しむ」だけではなく、その良さを「生で感じてもらう」、体験型のイベントを取り入れる予定である。また、「淡路産」の農産物について、「食」に加え、栽植も含めた素晴らしさを体感いただく行催事を行うこととしている。

今ひとつは、淡路の花やみどり、自然の素晴らしさを磨き上げ、レガシーとして継承していく事業である。具体的な取組としては、世界の潮流でもある自生種を活かした庭づくり等、花とみどりと自然な形で共生する暮らしのあり方を提案していく。加えて、淡路の花とみどりを育て発展させてきた人々の歴史も伝える。さらに、SDGsに資する展示・行催事を企画・立案・実施する検討過程で地域住民の協力を積極的に得る。なかでも、地域の若者のアイデアを積極的に取り入れ、次代の魅力ある淡路島を担う人材を育てていく。また、竹チップ等によるバイオマス燃料の活用等、自然への負荷を軽減する取組を広めていく。

同時期に、大阪関西万博やAWAJI島博など、国内外から島内に誘客するイベントが目白押しであり、こうした機会をも捕まえ、淡路島全島に点在する地域資源を繋ぎ合わせるとともに磨き上げ、

フェア開催後も持続可能な観光資源として仕立て上げる。

#### 5 今後の推進スケジュール

花みどりフェアは、令和5年10月に石村健（一財）淡路島くにうみ協会理事長（淡路信用金庫理事長）を会長、齋藤元彦兵庫県知事を名誉会長とする県内の約80団体個人からなる実行委員会を設置し、令和6年1月からは、実行委員会事務局に、それまでの県職員に加え、淡路市、洲本市、南あわじ市からも職員の派遣を受けて本格的な準備作業を開始した。

現在、事業の考え方と方向性をまとめた「基本計画」を、中瀬勲企画委員長（人と自然の博物館館長）のもと検討しており、2月には、第1回実行委員会において決定する。これを受け、事業の企画、内容、実施方法を具体的に取りまとめる実施計画の策定に取りかかる。

令和6年3月にも開催する開催1年前イベントを手始めに、インターネットやマスメディア、紙媒体を含めた広報や、地元主催の事業を進めていくことにより、令和6年3月の開催に向け、地域の機運を盛り上げ、国内外からの来訪客を迎える準備を進めていくこととしている。

水仙やカーネーションといった島内市の「市花」をはじめ、温暖な気候に恵まれる淡路島の自然や食材を活かした地域活性化の起爆剤となるイベントを企画している。

是非、この機会に淡路島を訪れていただき、花と緑、食、自然との共生を体感いただきたいと考えています。



(モリモンツアー)

### Ⅲ お 知 ら せ

#### ◎行事予定

#### 1 2月の月例会

日時：令和6年2月8日（木）  
12：00～14：00  
場所：神戸三宮東急 REI ホテル  
演題：「人と環境に負荷の少ない家づくり」  
講師：YURI DESIGN 代表  
前田 由利 氏

#### 2 3月の月例会

日時：令和6年3月7日（木）  
12：00～14：00  
場所：神戸三宮東急 REI ホテル  
講師：明石市 NPO 法人居場所 理事  
清水 美代子 氏  
内容：「認知症を知り、共に生きる」

#### 3 令和5年度第4回理事会

日時：令和6年3月7日（木）  
14：00～15：00  
場所：神戸三宮東急 REI ホテル  
内容：・令和6年度事業計画  
・令和6年度役員選任  
・令和5年度財務報告  
・その他

#### 4 令和5年度事業監査

日時：令和6年4月8日（木）  
13：30～14：30  
場所：(一社) 兵庫県建築会事務局  
内容：・令和5年度財務関係監査  
・令和5年度事業執行状況  
・その他

#### ◎編集後記

新年早々、能登半島地震が発生し、大きな被害をもたらしました。阪神・淡路大震災以後も数多くの地震が発生しましたが、その都度私の脳裏に焼き付けられた当時の情景を思い出します。

現地では厳しい状況が続くと思いますが、1日でも早い、復旧・復興がなされることを祈念しております。

さる1月11日に当会恒例の新春会員交流会が開催されました。

今回も服部兵庫県副知事様以下数多くの来賓にご出席して頂きました。お忙しいなか誠にありがとうございました。

新春会員交流会が終われば、年度末の事業となりますが、会員の皆さまにおかれましても、月例会等にご出席頂きますようお願いいたします。

事務局：吉本義幸、石井滝実子  
電話：078-996-2851  
FAX：078-996-2852  
Email：[archit-k@axel.ocn.ne.jp](mailto:archit-k@axel.ocn.ne.jp)



安心をカタチに  
**兵庫県住宅再建 共済制度**  
**フェニックス共済**



自然災害から守りたい「住まい」と「暮らし」



**今後、もしも！！**

**南海トラフ地震が発生したら**

- ▶ 30年以内の発生確率 最大 80%!
- ▶ 県内の被害想定 全半壊 21.5万棟!

**活断層地震が発生したら**

- ▶ 油断できない「山崎断層帯」「上町断層帯」など

**大型台風が直撃したら**

**豪雨による災害が発生したら**

自然災害で被災した  
 住まいの再建に備えて **兵庫県が実施する共助のしくみ!**

県内に住宅（戸建て・マンションなど）をお持ちの方に

**住宅再建共済**

年額**5,000円**で  
 再建・補修時等に  
**最大600万円**給付!

※半壊（損害割合 20%）以上

**一部損壊特約**

年額**500円**で  
 補修時等に  
**25万円**給付!

※損害割合10%以上20%未満

県内の住宅（借家含む）にお住まいの方に

**家財再建共済**

単独加入 年額**1,500円**で  
 住宅とセット加入の場合 年額**1,000円**で  
 購入・修復時に **最大50万円**給付!

※床上浸水・半壊以上

※住宅の被害認定（損害割合）は、住宅の所在する市町が発行する「り災証明書」によります。

- 地震・津波・豪雨・台風・地すべり・竜巻など、あらゆる自然災害による被害が対象です。
- 住宅の築年数や規模、構造等と関係なく、定額負担で定額給付です。
- 地震保険や他の共済に加入していても加入でき、給付が受けられます。

**お問い合わせ**

公益財団法人 **兵庫県住宅再建共済基金**

コールセンター **078-362-9400** (平日9:00~17:00)  
 FAX: 078-362-4082

E-mail [jutakukyosaiikikin@pref.hyogo.lg.jp](mailto:jutakukyosaiikikin@pref.hyogo.lg.jp)

フェニックス共済 検索 加入申込書はダウンロードできます



「加入申込書付きパンフレット」は、県庁・県民局・県民センター・市役所・町役場・郵便局（簡易郵便局除く）にあります。

クレジットカードでのお支払いの方は、インターネットからのご加入が便利です!